

20140915議事録（案）

平成26 年度厚生労働科学研究費補助金

難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）

「小児期からの希少難治性消化管疾患の移行期を包含するガイドラインの確立に関する研究」

第2 回ガイドライン作成コアメンバー会議

日時： 平成26年9月15日（月） 13時00分～15時20分

場所： 聖路加国際病院旧館（チャペルのある建物）5階研修室B

東京都中央区明石町9 1 聖路加国際病院

<http://hospital.luke.ac.jp/index.html>

【出席者】田口、松藤、友政、黒田、中島、藤野、川原、家入、田尻、臼井、河合、荒木（出席予定者全員出席12名）

【議事録】

1. ご挨拶（田口） 前回第1回ガイドライン作成コアメンバー会議の議事録確認、および宿題の確認。診療ガイドライン総括委員会の委員10名の承諾およびCOI申告の書類がそろったところを報告。ほかのメンバーの選定の進捗状況は一覧表参照。
2. 用語の定義と整理（担当 川原）

ヒルシュスプルング病および類縁疾患（小慢病名）、短腸症（小慢病名）、小腸機能障害（身障者病名：小腸不全、蠕動不全、吸収不全）について解説。小慢病名を厚労省が認めているのでこのままいくことにした。
3. 各グループの進捗状況と今後のロードマップ
 - 1) ヒルシュスプルング病類縁疾患（松藤、友政、黒田）

疾患概要、CQ8つの提案。類縁疾患のうち予後不良の3疾患についてガイドラインをまとめることを確認。CQごとに3疾患を論じることとした。次回までにCQをガイドライン作成グループに図り、システミックレビューチームの人選を松藤先生が行う。文献検索は2014年9月までとし、まず手始めにCIIPでやってみる。
 - 2) ヒルシュスプルング病（川原、家入）

九州大学の倫理委員会承認済み。日本小児外科学会の学術委員会の審査へ。2008-2012年の症例の全国集計の調査項目の提示。これをWeb上で行えるようにシステムづくり。経費がいくらかかるか？ 悉皆性を高くするには前回調査の各施設の症例数を提示、5年で1000例くらいなので予算からは謝金は1例1000円程度。今年中に調査終了予定。
 - 3) リンパ管腫（藤野）

三村班（岡山大、形成外科）と臼井班と3つの班にまたがる疾患である。使う側からは3つの班を包括するようなガイドラインをつくるほうが好ましいという意見で一致を見た。システマティックレビューチームは9名で3つの班で共通の人選としている。CQは腹部リンパ管腫に関しては治療について4つ案を作成。

4) 仙尾部奇形腫（田尻、臼井）

疾患概要、SCOPE案提示、CQ案は6個。システマティックレビューチームも構築が終わっている。ガイドラインには胎児診断や治療についてはあまり立ち入らない方向性。グループ会議開催済、会議録の説明。メンバー案作成済。

5) 非特異性多発性小腸潰瘍(中島)

九大出身岩手医大の松本班になった。現在小児例に関して内田先生が論文作成中。小児に特化したガイドライン作成を行うかどうかは成人の進捗状況みながら検討する。

6) 先天性吸収不全症（友政）

10月11日グループ会議開催予定。全国調査の準備段階。

4. 今後の予定・宿題（田口）

1)文献レビューのフォーマットについて実際に論文をみながら書きやすいものをつくるほうがいい（友政提案、松藤受け）

2)文献のレビューはCQおよびkey wordsおよびPIC0から実施する。担当は河合先生が担当し、経費は班研究全体として班長の九州大学からまとめて支払う。

5. 次回は全体班会議を12月21日(日)1300-1600 聖路加国際病院 会場は旧病棟5階、研修室A(100名弱収容可)、研修室B(本日の会場20名収容)。必要に応じてグループ会議も開催できるように場所確保。

文責：田口智章